

インド

健康な森、健康な人々、気候変動プロジェクト
西ガーツ北部の生物多様性保全と持続可能な生計支援
現地からのお便り

2018年11月
Applied Environmental Research Foundation (AERF)
コンサベーション・インターナショナル

* 本プロジェクトは、インドの地元 NGO である Applied Environmental Research Foundation (AERF) が実施します。

保全契約に向けたコミュニティとのミーティング

Sangameshwar 地区の Katavali 村と Devade 村と保全契約を締結することができました。この保全契約の下で、76 エーカー（30 ヘクタール）の森林が保全され、3 家族が便益を受けられるようになります。その他にも、Sayale 村、Washi 村、Nive Budruk 村で保全契約をアプローチの取り入れに向けて、村人たちとのミーティングを行いました。水田の農作業が忙しい季節であり、決定には家族のメンバー全員が集まらなければならないため、時間がかかっていますが、来期には更に多くの保全契約が締結できることを願っています。



Nive Budruk 村のメンバーと森

自生種の苗による森林再生

モンスーンの季節で雨が多く森林再生に適しているこの時期に、Kosumb 村、Vighravali 村、Kulye 村の聖なる森の空き地、そして Kalamabste 村、Kosumb 村、Muchari 村、Angavali 村の共用地に自生種の苗を植えました。合計で、33 種の 921 本の苗を植えて、柵で囲いました。この一年で、33 種の 4500 本の苗を苗畑で育てました。



Kulye の聖なる森の空き地に自生種の苗を植え付け

バイオマスを使ったかまどの実演と販売

Wanjhole 村と Ambavali 村でバイオマスを使った改良かまどの実演を行いました。Ambavali 村での実演は盛況で、30 人の村人（主に女性）が参加し、12 個のかまどの予約が入りました。7 世帯は補助を受け、700 ルピー（約千円）で購入しました。女性たちの自助組織の巻き込みことができたことは、重要な進展です。



Ambavali 村でのかまどの実演と村長との話し合い